

(再開 午後3時05分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

3番 湯本行浩 議員。

(「はい、議長。3番。」の声あり)

(3番 湯本行浩 議員 登壇)

1. スキー場関連の事業者の現状について

3番 湯本行浩 議員

それでは、議長から発言を許されましたので、通告に基づき2項目の質問に入らせていただきます。

まず1項目目です。スキー場関連の事業者の現状について。

先日、議員とスキー場関連の事業者の方々と話合いをしました。今シーズンの近隣のスキー場は前年比、斑尾150%、野沢温泉120%、戸狩100%、村内のスキー場は80%と聞いております。

スキー場は民間になったことにより、リフト営業も8時から稼働し、雪不足を補うため、降雪機の稼働も増え、平日でも全リフトが稼働しています。今までの対応との違いは、事業者の人たちは理解し、ありがたいとも思っています。

しかし、話合いをした時点で、村内の事業者は40%~50%減、これ売上げです。昨日時点では、なんと80~90%減となっている現状です。このままでは生活ができないと言われてしています。

なぜ、売上げが落ちたかの問いに「ポールバーンがなくなり、合宿の予約がキャンセルになった」「リフト券代が高くなったことで、お客さんが入っていない」と聞きます。

スキー場は本来、スキーをメインに生活している人たちがいろいろと考え、競技スキー、合宿などを誘致してきた経緯があります。今は競技スキー大会ができなくなっている現状です。

そこで、3点の質問をいたします。

1点目、村は、スキー場関連の事業者の意見を聞こうと思いませんか。

2点目、スキー場関連業者のポールバーン再開の希望を聞いて、スキー場側に交渉できるのでしょうか。また、交渉できる契約なんでしょうか。

3点目、宿泊客へのリフト券の割引をスキー場と交渉する考えはないでしょうか。また、交渉できる契約なんでしょうか。

以上、3点お願いいたします。

議長（勝山 正）

日暮村長。

(村長「日暮正博」登壇)

村長（日暮正博）

「スキー場の皆さんのご意見を」という話ありますが、これについては、またこれまでも述べてきたとおり、また行っていきたいというふうに思います。

そしてまた、観光振興局とも、その中でもやはりスキー場関係者だけでなく多くの事業者がおりますので、そういう場面でも一つ考えていくべきではないかと思っております。お互いに経営の話でありますので、互いに利益を上げていくような話合い、それは必要だというふうに思います。

そしてまた、旧牧の入スキー場(The きじまスノーパーク)も新たな経営者として再スタートしておりますので、一体的な村のスキー場観光資源として考えていかなければならないと思っております。

以下の質問について、産業課長に答弁させます。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、2点目、3点目のご質問についてお答えをいたします。

「スキー場事業者とのポールバーン再開」のお話ですとか、「リフト券の割引の交渉」というお話でございます。

契約上の話で申し上げますと、具体事例に対してどうするという記載はございません。

ただ、株式譲渡契約書の最終条に、「契約の定めのない事項については、契約者双方誠実に協議のうえ解決する」としております。本件に関わらず必要があるものについては、都度協議ができるものと考えております。

しかし、料金設定については、運営上最も重要とも言える部分と考えておりますので、前にもお答えしておりますように、様々なご意見をいただいておりますので、そういったご意見を交換する場を持ちながら、それぞれどのような改善ができるかどうか、一緒に協議をしてみたいと思っております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

まず1点目ですけれども、関連業者はですね、譲渡1年目でバタバタしていると聞きますし、村の役場の人たち、村長を始めですけれども、誰も様子を見に来ないと。来ているのかもしれないけれども、この現状を見てやっぱり話合いをしてほしいと、話をしてほしいということ言ってらっしゃいました。

そして、もう一つ質問なんですけれども、関連業者が誰と話合いをするのか。この村がスキー場との仲立ちをしてほしいと思っているのではないかと思うんですが、仲立ちをしていただけるのでしょうか、お願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「仲立ちをしてほしい」というご意見をいただきました。

今までも申し上げますとおり、やはり環境が変わっている部分もありまして、いろいろ課題もご意見もいただいておりますので、そういった意見交換の場を設けながら、お互いに改善できるものは改善していくということで、将来的に良いスキー場になって継続していけるように、それぞれまた検討をしていただけたら、村としても協議をさせていただければと思います。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

これは、2点目にはなると思うんですが、その後、スキー場関連業者が村にお願いしてじゃないですけれども、スキー場と協議していただけるということなんでしょうか。協議していただけるのか、それとも3者会議みたいなものになるのでしょうか。

その辺のことをちょっとお聞きできればと思います。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

村が代表してスキー場運営者と話し合いをするというよりは、意見交換の場として事業者の皆さんなり、例えば旅館組合の皆さんなり、そういった皆さんの声として、どういったことができるかできないかですとか、意見交換の場を設けていくということで、今のところは考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

2点目の再質問になりますけれども、お答えになられた契約に定めのない事項については、「契約者双方誠実に協議するうえ解決する」となっているんで、契約者であるこの村が先導して行っていただきたいと思いますが、ある意味、確かに民間同士の話になってしまうのかもしれないけれども、契約者に入っている以上、村が率先して行っていただきたいと思いますが、どうお考えになりますでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

村としますと、確かに村長名で契約はしておりますけれども、村を代表してということでございますので、そういった場を村が、観光振興局と共にですけれども、設定をして場を設けるというような形で考えていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

その事業者の方々は、やはり村、役場頼りにしていますので、その辺のところはよろしくお願いたします。

そして3点目の質問になりますけれども、ポールバーンが無くなり、競技スキーや大会ができなく

なり、リフト券も値上がりしています。これは大きな現状変更ではありませんか。1年目でこれほどの急激な現状変更を許す契約なのでしょうか。お答えください。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

契約上のお話でございますが、先ほど申し上げたように、問題事項があれば都度協議をしていくということございまして、運営上の細かい取決めには、契約では触れておりませんので、ただ、スキー場を継続をしていただくというものについては明記をしている契約でございます。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

事業者を始めですね、村民に、これは議員も一緒だと思うんですけども、スキー場を譲渡する際、譲渡前及び譲渡後の説明不足で現状があるのではないかと思います。

契約書等がやっぱり開示できないのであれば、契約をした当事者が丁寧な説明をしなければいけないと思いますが、その辺はしていただけるのでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

ただ今のご質問は「契約書の説明」ということで捉えて答弁をさせていただきますけれども、契約書の説明につきましては、議会の中でも案という形で説明をさせていただきました。

それで、運営上の説明については、運営自体は事業者の方にお任せをしたという形ですので、そういった、今までの答弁にもありますとおり、少し急激な変化があったことは承知をしておりますので、そういったご意見も踏まえて、今後そういった意見交換の場を持ちながら、改善ができるものであれば改善をしていただけるようにお話をしていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

連日ですね、議員がスキー場のことでいろいろ説明を求めておりますけれども、今年のシーズンも終わりに近づいています。スキー場も1年目でバタバタして大変だったと思います。

しかし、来シーズンに向けて、スキー場も関連業者も万全な体制で挑んでいただきたい。そのためには契約者である村の協力が不可欠と考えます。

三方良しとなるよう、丁寧な説明、話し合いなどをしていただきたいと思います。そういうことは、

やっていたらいいのでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

そういったご意見も踏まえて、今後、意見交換の場を設定しながら、それぞれ事業者の皆さんが、全員が全員しやすいついていう環境を整えるのは難しいかもしれませんが、それぞれコミュニケーションとるような場、意見交換ができるような場を設けさせていただいていきたいというふうに思っております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

来年、来シーズンと話とはいえ、やはりもう1年をかけて準備をしていかなきゃいけないと思いますので、本当に村というかスキー場と、スキー場の譲渡に関して契約者同士がやはりいろいろ意見が交わるのであれば、早めに来シーズンに向けて双方が良くなるようにしていただきたいと思います。それをやはり、村が担っていただきたいと思いますし、これはもう早めをお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

度々申し上げてきましたが、今年状況等を踏まえながら、やはり来年、来シーズンに向けて改善できるものは改善するように、また協議をしていきたいというふうに考えております。

その際に、村としての役割は果たしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本議員。

2. 木島平村の観光と地域活性化起業人について

3番 湯本行浩 議員

これ大変本当に関連業者にとっては死活問題だと思いますので、これは6月の議会でもたまたま同じ質問をさせていただきますので、進捗状況をお知らせ願えないかと思っております。

では、2項目目の質問になります。

木島平村の観光と地域活性化起業人についてです。

令和6年度地域活性化起業人の募集についての資料が出ていますが、現地域活性化起業人は3年目の最終年度であります。この3年間でどのくらいの効果が生まれたのか、客観的に見て効果が出ていないと感じますが、新たに令和6年度において、3年間で予定し、木島平村観光振興局を中心に、委託

料、負担料を含め、年間760万円が計上されています。

そこで4点の質問をいたします。

1点目、現地域活性化起業人が木島平に対してどのような効果があったのか。また、どのくらいの効果があったのかをお伺いします。

2点目、現地域活性化起業人の業務の確認と評価をお伺いします。また、改善点もお願いいたします。

3点目、これからの木島平村のメインとなる観光が具体的に計画されているかお伺いいたします。

4点目、新たな地域活性化起業人の契約により、どのような効果を求めているのか。また、どれくらいの効果を求めているのかをお伺いいたします。

以上、4点です。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

地域活性化起業人についてのご質問ですが、このご質問については産業課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から答弁をお願いいたします。

1点目、「効果は」ということをございます。

どのような効果については、次の質問でお答えする業務内容を行うことにより、村内企業や村外の人が関わることにより、新たな交流が生まれたこと。その交流により、新たな事業や関係が生まれ、それを活用し、事業に効果が生まれたことだと考えております。

どのくらい効果があったかでございますけれども、効果を数字で表すのはとても難しいのですが、一例を挙げて効果を示すとすると、地域おこし協力隊を活用し、ウェブサイトやSNSの運用により、いわゆるフォロワー数の増加数として、今年1月時点の数字ですけれども、2年間でフェイスブックが446人から1420人、インスタグラムが330人から1,975人に大幅に増加をしております。

また、地域おこし協力隊の活動では、地域企業への就職と地域での起業を目指して2人目が地域に定着をしています。

2点目「業務内容と評価及び改善点」でございます。

この事業の目的は、観光業の活性化と、観光のみならず、地域の多様な資源を活用しながら活性化を図っていく取組としまして、村の観光振興に係る統一コンセプト立案、地域資源の発掘、コンテンツ化及び発信、地域資源の発掘、体験商品・販売商品等としてのコンテンツ化、各種SNSやマスメディアを活用した発信、地域活性化起業人の活動に関する定期ミーティングの運営、その他木島平村観光振興局の業務となっております。

評価としては、先ほど申し上げた効果のところで評価として理解をしております。

また、改善点としては、起業人事制度を生かしながら、より効果的に事業管理制度を活用していくことが難しかったと考えており、改善点と考えております。

3点目、「メインとなる観光が具体的に計画されているか」ということでございますが、今現在、村の第7次総合振興計画が策定中であり、整合させながら、さきの議会でも申し上げました観光の基本的な考え方となるビジョンを作成中です。

4点目、「どのような効果を求めているか、どのくらいの効果を求めるのか」ということでございますが、今回の起業人の募集の目的は、これまでの起業人が取り組んできたことの継続の部分を発展させること、また新たな内容として、木島平村のファンづくり、村民及び事業者が村を誇りに思えるような環境づくり、地域製品のPR及び発掘・開発、デジタルマーケティングの運用といったところを内容としております。

効果とすれば、内容にありますように、広く村民や事業者の皆さんの事業継続のための支援などと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

まず1点目の再質問ですけれども、この「新たな交流」とか「新たな事業」というのは、これは何に当たるのでしょうか。お願いします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「新たな交流、新たな事業」ということですのでけれども、活動によりまして、企業の繋がりによりまして村に来ていただいて、また、その情報を発信していただいたことが挙げられると考えております。また、事業については、起業人が来て、協力隊を活用しながら活動していただきながら、村の企業と連携してイベントを開催していただいたことなどが挙げられるということだと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

一つに「フォロワーの数を増やす」ということをおっしゃいましたが、フォロワーの数を増やすということは、木島平のことを知っていただきたい、木島平に来ていただきたい、そして、村産品を買っていただきたいとかと思いますけれども、村内では村外の人を、僕だけなのかもしれないですけども見たことがないし、ふるさと納税は前年割れ、めぐる木島平では村産品の予約サイトに繋がらないということがあります。

客観的にみて、効果があったとは到底言えないと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

今「効果がなかった」というお話でございますが、ふるさと納税については様々な要因が考えられるかと思えます。

地域活性化起業人の業務の中にふるさと納税の業務は入っておりませんで、ふるさと納税については、コロナ渦中の状況があった、それが開けたときの状況があったりということで、その効果に直接現れてきていないというところは、効果として、こちらとすれば見ていないところでもあります。

それとまた、めぐる木島平の中での村製品のサイトの活用というところでもありますけれども、具体的には今準備をしているところでもありますけれども、例えば、農業振興公社におきましても、インターネットで販売できる、そういった指導もして、インターネットから村製品を紹介する、また販売をするといったような活用もして、アドバイスをいただいて活用につながっているというところがございます。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

これも議会で何度も言ったと思うんですけども、やはり農業振興公社とか、なんていうんですか、E-BIKE だとか、みんな一つずつ動いているんじゃないかと、全てを一緒にして発信できるようなことを、これすいません、要望になってしまいますけれども、こういうことをしていただけないかと、いただける気があるかどうかというのはいかがなものでしょう。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

今「情報発信」のお話でございます。

それぞれ各団体ですとか、行政でもウェブサイトというのを設けておりまして、それぞれで情報は発信をしております。観光振興局でも「めぐる木島平」という情報を持っておりまして、発信をしているところではありますけれども、ウェブサイトですとどうしても更新に時間がかかったり、ページの制限もございますので、今、観光振興局で力を入れているところは、先ほど申し上げたように、いわゆる機動性のあるSNSを活用しまして、木島平の観光のみならず、村の情報をいろんな情報を発信しようというところを進めているところがございますので、その発信ですと、季節ごとですとか、天気の情報とかも発信できますので、そういったところを重点に置きながら、発信していきたいと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

2点目の質問になりますけれども、地域活性化起業人ですけれども、3年間の地域資源の発掘で何かありましたでしょうか。お聞きします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「地域資源の発掘」ということでございます。

元々村にある地域資源、発掘することも一つの業務としてお願いをしておりましたし、それをいかに見せていくかっていうところもお願いをしてきたところでもあります。目に見えて形になっているものとする、登山道とかをマップを作ったりですとか、あとカヤの平も含めた中で、村内の情報を発信するといった形で資源の発掘をしてきております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

ちょっと細くなっちゃうんですけども、「より効果的に事業管理制度を活用していくことが難しかった」、これはどういう意味なのか、どういうことなのでしょう。ちょっとお尋ねします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

地域活性化起業人の制度は、村でも3年前に初めて導入した制度でございます。全国を取組とかも参考にしながら、どういう活用して活動をしていただくかということも含めて、お互いに意見交換とかミーティングをしながら進めてきたところではありますけれども、来ていただいたのがコロナ禍といった状況もありました。観光施設の民営化も進めてきた中で、これから木島平にとっての観光の進め方とかも一緒に考えていただいた経過がございます。

業務の中で、観光統一コンセプトの作成という業務がありましたので、今までのちょっと観光と違った視点で「人づくり×里山」というコンセプトも作成をしていただいて、観光振興局のコンセプトにしております。なので、全体を見回して、村にある資源等を活用していただくということで、進めてきたというところでございます。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

地域活性化起業人っていうのは契約上では、地域資源の発掘とか、SNS、めぐる木島平で村製品の予約ができるように作り直すとか、そういうのを最初に掲げられたとは記憶しているんですけども、今聞いてその3年間で、ある意味、本当に頑張っただけではないかと思うんですけども、その成果としてあまりにも見えなさすぎるのではないかというふうを感じる人が多いのではないかなと

思います。

そして、この「改善点」ということで、この改善点っていうのは、この起業人から出てきたことなんでしょうか。それとも、村が考えることの改善点なんでしょうか。お願いします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

事業を進めてきたのは村でございますので、村としてその活用を、例えば理解をいただくために、どういう見せ方をするかというところも少し難しかったというふうに感じております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

その起業人の方から改善点っていうか、そういうものは出てきてないということですか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

制度での改善点と事業の中で進めてきている中での改善点、それぞれあると思いますけれども、木島平の観光への課題ですとか改善点っていうのは、それぞれ3年間この村に業務をしていただく中でいただいておりますので、そういったことを進めながら、今に至っているというような状況になります

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

地域活性化起業人ですか、結果とかそういうのを含めて私達に見せていただけののでしょうか。起業人が書いたもの、示したもの、です。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

起業人の実績については、任期満了後、提出していただくことになっておりますので、それは情報共有をさせていただきたいと思います。

今までも、考え方ですとか、こういった事業の提案みたいなものについては、議会の委員会の中でも少しご紹介をさせていただいた経過があります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

本当に、これから地域活性化起業人をお願いするときに、やはりそういうのは大切ですから、しっかり検証していきたいと思います。これは私達もです。

そして、今度3点目の質問になりますけれども、「これからの木島平のメインとなる観光が具体的に計画されているのかお伺いします」という質問で、「今現在、村の第7次総合振興計画が策定中であり」と答弁されましたけれども、これ例えば観光とかの考え方とか方向性とか、作成中であれば、今、地域活性化起業人が来たって何をしたいのかわからなくなるんじゃないか。

だから、今、お願いしなきゃ駄目なんですか。第7次総合計画をしっかりと作り込んで、そして村の観光をしっかりと方向づけて、それはスキー場も馬曲温泉も全てです。これを織り込んで、ある意味、起業人お願いしますというふうにはならないのでしょうか。お願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

第7次総合振興計画につきましては、村の各分野での施策ですとか目標といったものを定めるものになっております。それに基づいて、連動しますけれども、観光のビジョン的なものの考え方のものを作っていきたいというふう考えております。

基本的に第6次から第7次の総合振興計画については、当然継続部分もございまして、新たに追加される部分もございまして、そういったことも含めて、今回の地域活性化起業人、まだ途中経過でございましてけれども、大きな方針は変わりありませんので、そういったことも含めて起業人の業務としてお願いをして、募集をしているところであります。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

ですから、今の話を聞いたら、村の皆さんというか私達は、起業人の効果がないというふう感じております。そこんところに来て、またそれを継続して、また3年間お願いするっていうのが、とてもじゃないが考えられないんですね。

で、本当に先ほども言いましたけれども、起業人の方も一生懸命やっていただいたと思います。それは、やはりその村としての方向性だとか、目的、そういうものがないから、起業人の方も右往左往してしまったんじゃないかなって思うんですね。

ですから、今、一歩立ち止まって、それをしっかりと作り上げてお願いする。これは、地域活性化起業人も、それこそ地域おこし協力隊ですかね、その人たちを引き連れていくにしても、そこにいくん

だっていうしっかりしたものを作ってからでもよろしいんじゃないかと思うんですが、その辺はいかがですか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「計画を作ってから改めて」というお話もございました。

ただ、先ほども申し上げたとおり、村の事業ですとか行政ですとか政策っていうのは、引き続き行う部分が非常に多くなっております。観光業務の中でも、例えば滞在型観光の推進ですとか、そういったものについてはずっと引き続き行っているものでありまして、場合場合によって考え方が変わってきたりということもございますので、引き続き行っていく業務ということが中心の業務になります。そこに新たな魅力を追加していったりですとか、新たな発掘をしていったりってことだと思っておりますので、引き続き継続して行っていくことが重要だと考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

業務を継承していくのであれば、別に新しく起業人を入れなくたって、今まで残っている、例えばその地域おこし協力隊であり振興局の人であり、そういう人たちがとりあえず、とりあえずって言ったら失礼かもしれませんが。ただ、それを継承していただいて、そしてその間に、この村の観光振興というもののしっかりとした柱を作られてからしてもよろしいかと思うんですが、お考えになっていただけないでしょうか。これは多分平行線になるので、お考えいただきたいと要望ということでお願いいたします。

今までいらっしゃる地域おこし協力隊とかそういう人たちが継承していくというわけにはいかないのでしょうか。お願いいたします

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

地域おこし協力隊がその業務を継続して担っていくという考え方も一つであろうかとは思いますが、地域おこし協力隊の任期がございます。その中で地域に定着していくっていうことを一つの目的としております。

また、起業人につきましては、今まで起業人が築いてきたものを、更に事業化に向けて具体的に組み込んでいただくということも一つの目的としておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

これはちょっと一番最後に言おうかちょっと迷っちゃったんですけども、今、地域おこし協力隊の話も出ましたから、丸山議員の質問にお答えになったのが「地域おこし協力隊の教育」ということを答弁されました。

今までずっと地域おこし協力隊の質問をいたしますと、「自主性が大切だ」というふうについていつも言われていました。これはある意味、整合性がないんじゃないのかなと思いますけれども、その辺のところはどうか。これは質問としてはですね、まず本当に目的、みんな同じところを見てないと、片や自主性、片や教育、みんな違う方向になってしまうんじゃないか。それは地域活性化起業人も一緒ではないかというふうに思いますが、その点はいかがと思われますか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

ご質問の「みんなが同じ方向を向いて」ということでございます。

大変重要なことでございます。今の地域活性化起業人の業務の中で、統一コンセプトというのを作っていただきました。観光振興局ですとか観光行政の中でも、今までと違った「人づくり×里山」というコンセプトをもとに、事業の組み立てですとかそういったものを行っておりますので、同じ方向を向いているというところでは、こちらで整合性が取れていると考えております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

ちょっとこれは質問じゃないっていうか、あれなんで、僕も今聞いたばかりなんで頭がこんがらがっちゃったんですけども、人づくり、地域おこし協力隊の人を、やっぱ作らなきゃいけないので、これも考えて、例えば教育するなり自主性を任すなり、いろいろなことがありますけれどもそれを人づくりということで考えていらっしゃるんであれば、お願いしたいなというふうに思います。

4点目なんです。新たな地域活性化起業人の計画により、どのような効果を求めているのか。またどのくらいの効果を求めているのかお伺いしますと言いました。

そして、今度新しく入るとしたら、地域活性化起業人っていうのは、事業計画の提出はあるんでしょうか。お答えください

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「事業計画の提出」というお話でございます。

今回募集をしている業務として各種業務の提示をしております。

それに基づきまして、決まった企業と打合せをしながら、どういった方向で進めていくかというよ

うな計画は作っていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

いや、事業計画の提出を求めるんですか、求めないんですか。

だから、大事なことなんですよ。これから、それこそ何をやってくれるのか。だから、何をやってくれるから私達はいろんなところを見ていかなきゃいけないんで、それがないと見れないんですよ。何をやっているのか。ですから、ぜひとも事業計画、契約したら話ですけれども、事業計画の提出を求めていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

募集の要項にも書いてございますけれども、業務というものを提示しておりますので、先ほども申し上げたとおり、その業務に基づいてどういう形で進めていくかっていうのは、実際に観光振興局ですとか村の意向も踏まえて、どういう計画にしていくかというのは、どの程度ってというのがちょっと今のところ協議をしてみないと分かりませんので、その辺については協議をして、提示ができるものであれば、提示をしていきたいというふうに思っております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

提示をしていただきたいと思いますけれども、これはもし契約するとしたらですけれども、その契約をする前に、どういう業務をしていただくということを私達にも提示していただけないでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

具体的な事業計画と申しますと、例えば、こちらに来て初めて分かることですかあると思います。

契約に至るまでですけれども、これ委託業務ではありませんので、起業人と一緒に村がやりながら考えていく部分も結構ありますので、考え方ですとか事業に対する取組の方針ですとか、そういったものであれば、お示しはできるというふうに思っております。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

なぜそこにこだわるかと言いますと、前にですね、地域活性化起業人の説明会があったんですけれども、いろいろ私達も質問しましたが、「それは契約に入っていない」ということを言われました。

ですから、契約というものっていうのはやっぱり大事なんであって、それがやってないんじゃないか、いや契約に入っていない、ではいけないと思ひまして、契約する前には必ず私達にもそれを見せていただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

その話については、前回の議会の全協のときにもご意見をいただいておりますので、ただ、今回のこの制度の契約書というのは、企業側との協定書になります。取り組む業務の中身を書いてあるものでございますので、それについては、今議会で委員会の中でもお示しをしていく予定でございますので、よろしくお願ひいたします。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

これ最後になると思ひますけれども、私はですね、地域活性化起業人の制度を否定しているわけじゃないんです。ただですね、地域活性化起業人っていうのは木島平のことを思ひて一生懸命されていたんじゃないかなというふうに思ひます。だけれども、村がしっかりとした方向性とか目的を、村が提示できなかったんじゃないかなというふうに思ひますよ。

ですから、第7次総合振興計画なり、来年の目的、計画とか、そういうのがはっきり決まったときに、お願ひしていいんじゃないでしょうか。ですから、今回は、お止めいただくという方向性はないんじゃないでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

今考へているのは、やはり事業は継続しておりますし、新しいものの事業化に向けて進んでいる部分もございまして、そういったところも含めて、継続してそういった制度を活用して事業の展開を図っていきたく考へておりますので、よろしくお願ひいたします。

議長（勝山 正）

湯本議員。

再質問

3番 湯本行浩 議員

どうしても地域活性化起業人をお願いするんであれば、もう早急に村としての方向性を打ち出していただきたいと考えますけれども、その辺はどちらが先とお思いになりますか。起業人か、それとも計画か。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

どちらが先というお話もございますけれども、協定書については先ほど申し上げたように、予算決算常任委員会の中でもお示しをさせていただいて、どういう業務をやっていたか、担っていたかということをお示ししてご検討いただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本議員。

3番 湯本行浩 議員

常任委員会の方でそういう議論をしていきたいと思います。
私の質問は以上です。

議長（勝山 正）

以上で、湯本議員の質問は終わります。

（終了 午後3時55分）

議長（勝山 正）

本日の日程は終了しました。

この際、申し上げます。

本日の会議における発言について、後日、会議録を調査し、不適切発言があった場合には、議長において善処いたします。

本日はこれで散会します。ご苦労さまでした。

（散会 午後3時55分）